

春。人事異動の季節です。辞令一つで西へ東へ。サラリーマンの辛さですが病気の子もいると大きな問題です。会社の都合より個人の事情。家族が揃っているの幸せ。その幸せがあるからこそ仕事にも励める。会社も理解していると思いますが...

かくいう私も異動となりました。私の場合は東京での単身生活ともお別れ 静岡の自宅に戻ります。家族は喜んでいますが、仕事は6月に始まる夕方のワイド新番組 静岡朝日テレビ の準備で超多忙になりそうです。

結局 父親不在の状況は変わりそうもありません。

< 第 5 7 回 ほほえみの会 >

最近入院された方と先生ら合わせて 10 人が参加しました。

入会された方は小学 5 年の女の子で骨髄性白血病、親のショックも大きいようです。

まずは病気を治すことが第一ですが学校のことにも心配されていました。

同じくらいの年齢で院内学級や中学進学のことなどわかる方がいたらアドバイスを下さい。

また、中学 1 年 3 年に兄弟がいるとのこととそちらの心配もされていました。

他の方からは「もう大きな子なので妹の病気の様子や親の悩みを正直にさらけ出して家族一緒に頑張っていくのが良いのではないか」などの意見が出されました。

1 年間の入院が終わり通院に変わり春から幼稚園に行かれる方も見えました。

ちゃんと幼稚園に行けるのか心配の様子でした。

体も弱いし髪も薄いと何か言われることは覚悟しておいた方がいいだろう。でも言われてもそれだけ強くなれるし人に優しくもなれる。子どもにとっては楽しいところ、お母さんが前向きな気持ちでいれば大丈夫。などの意見がでました。

静岡バイパス千代田インターにこども病院の案内標識がつけました。これは会員の方が県に掛け合って設置されたものです。

面会に車で来られる方の中には早く行きたい気持ちからスピードをオーバーし警察に捕まる方も多いと聞きました。また心配のあまり運転に集中できないこともあります。お互い十分に気をつけましょう。

会では以前から「面会時間が延びているがその間兄弟の面倒を見てくれるボランティアがいないだろうか」との意見がでており先日、保住看護副部長に相談をしました。

こども病院には昨年ボランティアサークルが誕生したということですがなかなか定着に至っていないようです。面倒を見る場所の確保や人材など問題も多いようですが、現状を説明し善処のお願いをしてきました。

毎日新聞社の「病院ボランティア支援基金」を頂きホームページを作成しました。アドレスは下記の通りです。少しずつ充実をさせていきますので長い目でご協力ご支援をお願いします。

次回は 4 月 9 日 (日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一